平泉世界遺産登録15周年関連企画

平泉研究の広がりと可能性

● 講　演　13:05～15:25

▶ **東アジアの視点から平泉を考える**
小島　毅　氏（東京大学大学院教授）

▶ **柳之御所遺跡の保存運動から世界遺産平泉へ**
熊谷 常正 氏（盛岡大学名誉教授）

▶ **世界遺産　～この15年～**　鈴木 地平 氏（文化庁文化財調査官）

● 講演者によるパネルトーク　15:40～16:30

世界遺産平泉研究のポテンシャル

司会：岩手大学平泉文化研究センター センター長 中村 安宏



日　時　令和８年12月５日(土)
午後１時～（12時30分開場）

当日受付　参加無料　定員150名

会　場　プラザおでって《ホール》
盛岡市中ノ橋通一丁目1-10

参加方法　どなたでも参加いただけます



JR盛岡駅前バス６番のりば「盛岡バスセンター行き」に乗車、または16番のりばから「盛岡中心市街地循環バスでんでんむし左回り」に乗車、いずれも「盛岡バスセンター前」下車、徒歩２分

主催：岩手大学 岩手大学平泉文化研究センター 岩手県 岩手県教育委員会
共催：平泉町教育委員会 一関市教育委員会 奥州市教育委員会

問い合わせ先：岩手大学平泉文化研究センター　chs@iwate-u.ac.jp

～ 平泉世界遺産登録15周年関連企画 ～

平泉研究の広がりと可能性

日程・内容

13:00 開会あいさつ　岩手大学

講　演

13:05 東アジアの視点から平泉を考える　小島 毅 氏（東京大学大学院教授）

世界遺産（world heritage）と称する以上、国内での（national）特色を越えるグローバル（global）な意義を求める必要がある。私は以前からこの観点に立って「東アジアの歴史文化における平泉の位置付け」の重要性を論じてきた。今回もこれについて話すことを考えている。具体的には、近年進捗している10世紀から12世紀にかけての中国南部や中国東北部、朝鮮についての研究成果を参照しつつ、前九年の役以降の東北地方に起きた事象の文化史的意味を扱うつもりである。

14:00 柳之御所遺跡の保存運動から世界遺産平泉へ　熊谷 常正 氏（盛岡大学名誉教授）

柳之御所遺跡の緊急発掘調査の際に展開された各方面における遺跡保存をめぐる取組みは、40年近い歳月が流れた今日、国史跡「柳之御所・平泉遺跡群」と世界遺産「平泉」として有形化されている。21世紀を生きる私たちにとって、柳之御所遺跡とは、また平泉とは何で、どのような意味を持っている場所なのか、文化財保護行政の立場から柳之御所遺跡の保存にかかわった経験も踏まえ、皆さんと一緒に考えてみたい。

14:50 世界遺産～この15年～　鈴木 地平 氏（文化庁文化財調査官）

2011年に「平泉-仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」が世界遺産に登録されたのちも、関連する資産を追加すべく調査研究が進められてきた。世界遺産の文脈で積み重ねられたこの研究成果についてわかったこと・いまだわかっていないことを含めて紹介するとともに、登録された資産を保存・活用するためにこの15年間で整えられてきた手法・取組について総括する。

休　憩

（15:25～15:40）

15:40 講演者によるパネルトーク「世界遺産平泉研究のポテンシャル」

司会：岩手大学平泉文化研究センター センター長　中村 安宏

16:35 閉会あいさつ　岩手県

